

音楽理論学習におけるeラーニングの活用(2)

—LMSのドリル及び解説映像作成を通して—

Use of e-learning in music theory learning: From practice using test of courseware

小林田鶴子(神戸女子大学)

Tazuko KOBAYASHI (Kobe Women's University)

(キーワード)

eラーニング、音楽理論、保育士・教員養成

1. 音楽理論学習でのeラーニングの活用

筆者の所属する教育学科では、小学校教諭と幼稚園教諭、保育士の免許が取得できる。

(今年度入学生から中学の英語教諭の免許取得も可能になった)

その中で、音楽の実技はピアノや弾き歌いのレッスンである「器楽」が1年次から開講されているが、本学の学生は、音楽実技についてはいわゆる初心者が多く(2017年の調査では3分の1弱の学生がピアノ経験が全く無い)、経験者との差をどのように埋めるかが課題となってきた。そのため、昨年度は器楽のレッスンの空いた時間にクラス授業を行い、初心者クラスと経験者クラスを分けたレベル別講義を行った。しかし、今年度は新型コロナウイルスの感染拡大から、前期は全面的にオンライン授業となってしまった為、「器楽」の授業の中、音楽理論に関するオンデマンドコンテンツを作成し、対象学生に視聴してもらった。

そして、その学生は後期の「音楽科概説」で対面授業を受講しているが、前期に引き続き、オンデマンド動画を視聴できるようにした。加えて、昨年実施したものと同内容のmanaba(本学が導入しているLMS=Learning Management System)によるドリルを実施した。

昨年度の研究発表では、1年次開講の「音楽科概説」2クラス92人について、manaba(マナ

バ)によるeラーニングの実践とその効果について考察したが、今年度は、オンデマンド映像を視聴しているため、本研究発表では、昨年度と同じドリル(大東文化大学の「音楽概論」で深見友紀子氏が作成されたものを許諾を得て使用)結果を比較することにより、その効果について考察していきたい。

2. オンデマンド解説映像の効果についての検証

昨年度と同様に、「音楽科概説」受講者による、manabaのドリルと期末のペーパーテストの得点の比較を行い、その効果を調査する。

- ・実施期間：2020年10月～2021年2月
- ・対象学生：音楽科概説履修者(1年生90人)
- ・実施方法：音楽理論のオンデマンド解説映像を視聴した今年度の学生と、解説映像が無かった昨年度の学生(92人)のmanabaドリルの平均点、期末テストの平均点を調査。

これにより、eラーニングの中でも動画による解説映像視聴の効果が表れると推察されるが、本稿執筆の段階で授業はまだ終わっていないので、授業終了後の結果を待ちたい。

参考文献

小林田鶴子「教員・保育者養成のための音楽カリキュラムと授業内容の検討」、『神戸女子大学教育諸学研究 第31巻』,神戸女子大学教育学科,2018,PP.65～84

*なお本研究は、行吉学園 教育・研究助成「研究部門」の助成を受けて実施されたものである。